

目次

- ・ 関西支部: 京機カフェ・文楽鑑賞会のご報告……奥田 寛 (pp. 2-3)
- ・ 14年ぶりの種子島・屋久島……藤川卓爾 (pp. 4-8)
- ・ 大阪・関西万博 写真レポート……岡本雅昭 (pp. 9-13)
- ・ ロラス島(サントメ・プリンシペ民主共和国)……西原 修 (p. 14)



関西支部：京機カフェ・文楽鑑賞会のご報告

奥田 寛（S55/1980卒）

7月26日（土）に17名で「文楽鑑賞会」を実施しました。

毎年この時期は「夏休み特別企画」で名作を披露してくれます。

今年は前半が時代物の「一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）」、後半は世話物の「桂川連理柵（かつらがわれんりのしがらみ）」

参加の皆さんはストーリーもよくご存じの方が多く熱心に観劇されていました。私は幹事として一応事前にストーリーを予習していったのですがなかなか難しく、イヤホンガイドを聞きながらの観劇で何とか理解できました。後半の世話物は比較的わかりやすい色恋ものでした。



鑑賞後は近くの「故郷」という中国吉林省の羊料理店で舌鼓！このお店はいわゆる「中華料理店」ですが、羊肉の串焼が絶品でした。

日本の三大古典芸能は「歌舞伎」「能」「文楽」といわれています。今年は映画で「国宝」が大ヒットしました。歌舞伎役者の一生を描いた作品でした。「文楽」も「歌舞伎」も演目は似通っています。ただし文楽は人形が演ずる形のため、いわゆる「スター」になる人物は無く「人形（人形遣い）」「義太夫（語り）」

「三味線」それぞれの「人間国宝級」が演じます。昨今は歌舞伎が人気を博して

いますが、文楽は歌舞伎に負けず劣らずの芸術作品です。文楽未経験な方でも楽しめますので興味のある方は是非一度ご参加ください。



14年ぶりの種子島・屋久島

藤川卓爾 (S42/1967卒)

令和7(2025)年7月に種子島・屋久島で京機会九州支部設立20周年記念行事が開催されました。行事の内容については「京機短信」No.407で中村久志支部長(S56/1981卒)から報告されていますが、14年前の平成23(2011)年にも種子島・屋久島で九州支部行事が開催されましたので、その時の思い出と合わせて今回の行事を振り返りました。

種子島と言えば「以後予算(1543)には鉄砲代」と覚えた鉄砲です。今回も種子島鉄砲館の見学をしました。前回も幹事役をしていたためか展示内容が余り記憶に残っていないのですが、今回は興味深く見学できました。



H23(2011). 4. 24

種子島鉄砲館



R7(2025). 7. 5



門倉亭南荘の宇宙飛行士の色紙 H23(2011). 4. 24
 角野(山崎)直子：2010年にディスカバリー搭乗
 土井隆雄：1997年にコロンビア搭乗
 若田光一：1996年にエンデバー搭乗
 星出彰彦：2008年にディスカバリー搭乗



ホテル・クレストン種子島から見た星空
 上杉憲一さん(S55/1980卒)撮影
 R7(2025). 7. 5

前は宇宙飛行士の定宿の門倉亭南荘に宿泊しました。山崎直子さんを始め有名な宇宙飛行士の色紙がありました。今回は南荘が満室でホテル・クレストン種子島に宿泊しました。天文写真が趣味の上杉憲一さん（S55/1980卒）が星空の撮影をしてくれました。

前回の懇親会場は南荘で、今回は外食会場で開催しました。



門倉亭南荘 H23(2011). 4. 24 総会・懇親会



味処井元 R7(2025). 7. 5

2回ともメインイベントは種子島の宇宙センター見学です。前回は発射点近くでの写真撮影が許されましたが、その後セキュリティが強化されました。ちょうど1週間前にH-IIAロケットの最終となる50号機の打ち上げが成功し、役目を終えて解体を待つランチャーを見ました。



H23(2011). 4. 25 種子島宇宙センター



R7(2025). 7. 6

千座（ちくら）の岩屋は干潮の時間に合わせて前回は夕方、今回は朝一番に行きました。大自然の姿は14年経っても殆ど変わっていません。



H23 (2011). 4. 24

千座の岩屋



R7 (2025). 7. 6

前回同様に今回もオプションツアーとして屋久島に行きました。
まず、屋久島南部の千尋（せんぴろ）の滝に行きました。滝は14年前と同じように流れていました。



H23 (2011). 4. 26

千尋の滝



R7 (2025). 7. 7

前回は縄文杉まで登山しましたが、今回は屋久杉自然館を訪問しました。



縄文杉

H23 (2011). 4. 25



屋久杉自然館

R7 (2025). 7. 7

屋久島電工の水力発電所のダムを見に行く途中で荒川登山口に行きました。14年前はここから登り5時間、下り4時間かけて縄文杉を見て来ました。



H23 (2011). 4. 25



荒川登山口にて

R7 (2025). 7. 7

屋久島電工の水力発電所は海拔約700メートルにあるアーチダムからの水を2段階に分けて利用しています。上流の第一発電所は山の中、下流の第二発電所は地下170メートルにあります。屋久島では電気エネルギーの自給率がほぼ100%です。1ヶ月に三十五日雨が降ると言われる屋久島ですが、今年は雨が少なくダムの水位が低下しているので、屋久島電工の工場の操業を一部停止して発電量を抑えているとのことでした。

前は自然エネルギー利用の発電所に行っていないませんが、九州支部では平成17（2005）年の設立総会時に八丁原地熱発電所、平成20（2008）年に霧島国際ホテルの地熱発電所を見学し、平成21（2009）年に北九州の響灘風力発電所を遠望しました。

14年ぶりに種子島と屋久島を訪れました。14年という時間は大自然にとってはほんの一瞬に過ぎませんが、その間に人間は確実に歳をとっていくと感じました。



八丁原地熱発電所
H17(2005).11.5



屋久島水力発電所 矢倉ダム
R7(2025).7.7



霧島国際ホテル地熱発電所
H20(2008).5.31

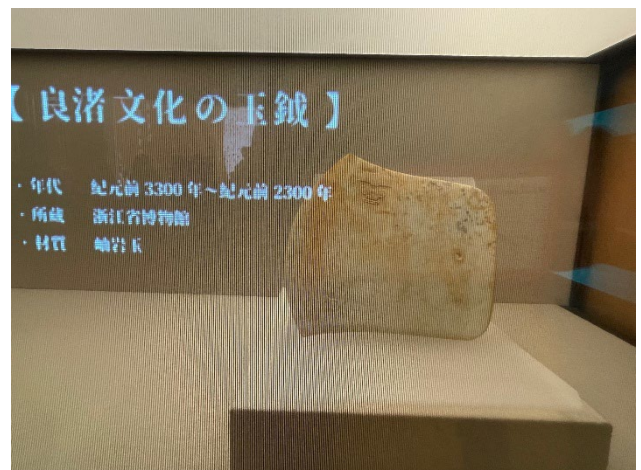
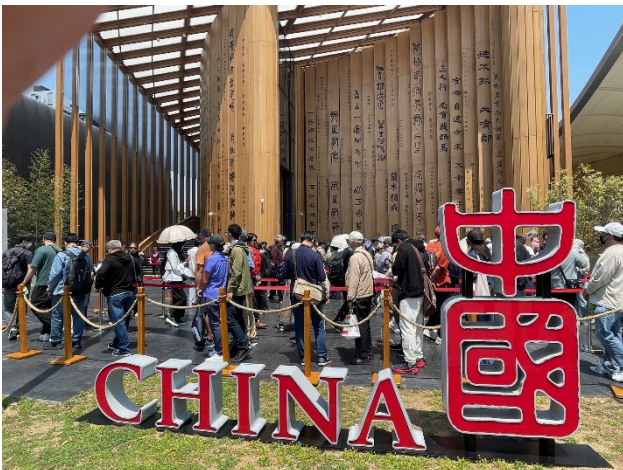
大阪・関西万博 写真レポート

岡本雅昭 (S47/1972卒)

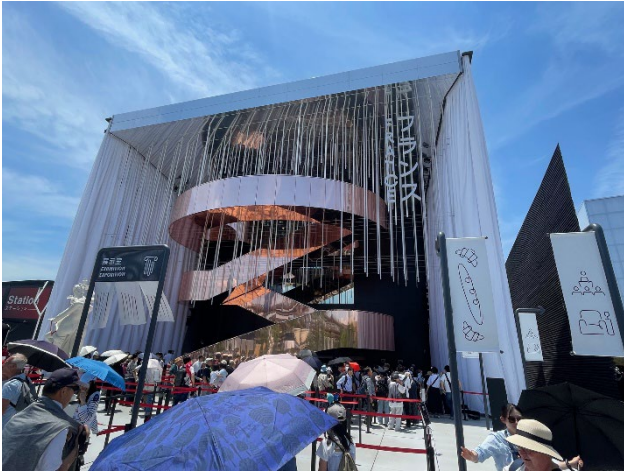
大阪・関西万博が4月13日に開幕。海外からは158ヶ国・地域と7つの国際機関が参加。参加国や企業、自治体などが出展するパビリオンは84館。万博など今更と言う友人達の冷たい視線に耐えつつ、『もう2度と万博は大阪へ来ない。生きている内に、否、動ける内に！今しかない！』と決意。通期パスを購入して、毎週平日1回、朝から6時間、会場徒歩13kmの万博巡りを続けています。海外パビリオンは全て制覇済で、会期中に25回訪問達成かな？

皆さん、アト30日以上開催されていますので、是非万博へお出掛け下さい！

1. **大屋根リング**: 圧倒的な強い印象、素晴らしい景観と木の香り！今回万博の大目玉作品です。直径645m、一周2kmで世界最大の木造建築物（ギネス認定証を掲示中）は、柱と梁を組み合わせ楔で固定する貫工法など伝統工芸の魅力が一杯。ミyakミyakもうなぎ登りの大人気！
2. **中国館**: 筆者の一番推し。紀元前3300年前の良渚・古代文化の玉璧や玉鉞、AIを活用したタクラマカン砂漠の緑化農業技術の現代、月の裏側から採取された土石の未来まで、過去・現在・未来を見据え、雄大なパビリオンで入場者を飽きさせない見事な展示。高齢者のVIP入場可能（右端から）。



3. **フランス館**: 動線が良く、85個のルイ・ヴィトンのトランク空間やオードリー・ヘプバーンを思い出させるディオールの赤・白・藍色のドレス、順路の各所にロダンの『手』の彫刻が置かれ、センスの良さが抜群。



4. アメリカ館: 最後のシアターが圧巻。シアターはロケット発射台の真下で、既に秒読みが始まっており、エンジンが着火し燃焼ガスが赤く噴射される中、青空を突き抜け、やがて暗い宇宙空間へ到達。人工衛星の間を掻い潜り、木星を通過し火星へ向かうミッションに参加出来ます。右は自撮り中



5. いのちの未来館: 石黒浩氏の企画・プロデュース。古代の埴輪に始まり、仏像、能面、文楽人形、現代のアンドロイドまでのロボット（人間の代替）の歴史を展示。館内では、自分の意志で老後に自然死か、アンドロイドで生き残るかの『いのちの選択』をする時代になるとのテーマ。約30体のロボットや『マツコロイド』に出会える展示も魅力です。（次頁左上写真）

6. クウェート館: 歴史や未来を感じられる展示が豊富で、砂漠の砂に触れたり出来ますが、何と言っても、最後に寝そべったまま星空や映像を鑑賞する天空プラネタリウムがピカイチ！（次頁右上写真）



7. トルクメニスタン館: 中央アジアの独裁国でシルクロード文化・伝統・経済発展をテーマにしており、パビリオン建物表面の巨大なアハルテケ馬の映像や番犬アラバイに関する絨毯の展示品などローカル色が強く印象に残るパビリオン。入場者の人気は急上昇中で長い行列待ちは必至。(表紙左下写真)

8. ポーランド館: ハーブや花を使った作品や草木を模したアートなど五感で楽しめる展示が中心ですが、140のパーツから構成されるオーラ(箒)が奏でるマズルカやポロネーズのリズムは繊細、且つ、微妙で強く印象に残ります。是非、耳を澄まして聞いて下さいネ?(表紙右上写真)

9. コモンズD館のサントメ・プリンシペ民主共和国: アフリカ大陸西側の大西洋上に浮かぶ2島から成るこの国の南端には、緯度0度(赤道上)×経度0度(英国グリニッジと同じ経度)が交差する点が陸上に在り、高さ2m強の赤道記念碑が在るとか。ブースでは、実物大の赤道記念碑レプリカを展示中。スタッフが流暢な日本語で詳しく説明してくれます。(左下写真)

10. オーストラリア館: 群を抜いて素晴らしい映像! 正面、側面、背面まで270度周囲を平面スクリーンで入場者へウミガメやクジラが泳ぐ海洋大国イメージを強くアピール。



11. イタリア館: 国宝級の美術品（ファルネーゼのアトラス大理石像、カラヴァッジオのキリストの埋葬（絵画）、ミケランジェロの「キリストの復活」像、レオナルド・ダ・ヴィンチのアトランティコ・コード（設計図））、天井にはダ・ヴィンチ設計の飛行機の展示、パビリオン壁際には古代ローマ時代レリーフの展示など、大阪万博一番人気。待ち時間は4～5時間。しかし、1F展示場から3Fの屋上庭園経由の出口への動線が大混雑の原因。



12. インドネシア館: 国民的歌手のEndah Larasさんとツーショット（左下）。

13. Future Life Village館: 大きな隕石の展示ブース。手で触ったり、ハンマーで叩いたり、楽しいブース。右下写真は6800万年前の隕石落下により死滅した恐竜の卵の巣の化石（中国、ゴビ砂漠出土）。



14. パブリック・アート21作品: 万博会場内には、国内・海外のアーティストによる展示アート15点と建物に描かれた壁面アート6点の合計：21点が設置されています。万博HPから会場内パブリック・アート、全21ヶ所配置マップを入手出来るので、探して見て下さいネ？

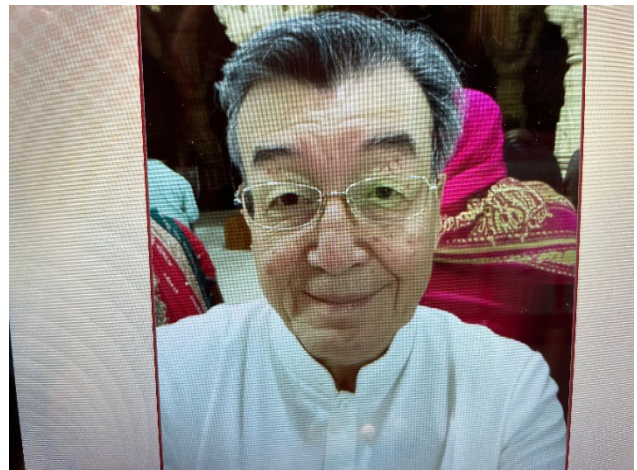
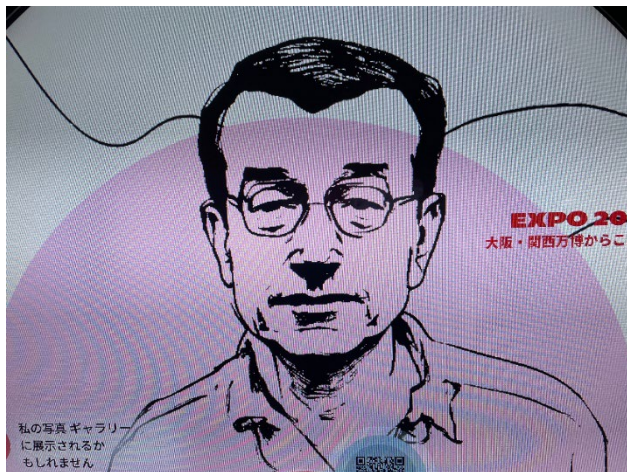
Inter-World(奥中章人、日本)



Bloom Paradise(賴 純純、台湾)



15. 付録: 筆者のAI似顔絵: 左下はオーストリア館、右下はインド館でインド風に加工された写真。その他、フィリピン館、EU館でもAI写真有り。



16. 追記: 裏技、必携品などのアドバイス: 東ゲートが地下鉄乗入で便利(ゲート入場予約時間は気にせず、繰り上げ入場可能)、午前中は多くのパビリオンが待ち時間無しで入場可、人気の日本館も抽選無しで0930~1030は先着順、アイルランド館も生演奏付きで整理券を配布中、中国館は長蛇の列に並ばず、右端の中国人係員に高齢者ですと伝えるとVIP入場が可能。

必携品は、スニーカー、帽子、日傘、扇子、水筒、タオル、クレジット・カード(現金使用不可)。

皆さん、アト30日以上開催されていますので、是非万博へお出掛け下さい!

以上

ロラス島（サントメ・プリンシペ民主共和国）

西原 修（S59/1984卒）

短信の編集を分担するようになってまだ日も浅いのですが、この9月号については、岡本雅昭様から寄稿された「大阪・関西万博 写真レポート」を読んでみて少し気になるところがありましたので、関連する情報を探してみました。具体的には、サントメ・プリンシペ民主共和国に関する記述です。

万博パビリオンの展示で緯度、経度がともに零の点が同国の陸上にあるかのように説明していたそうですが、やはりその地点はギニア湾の海上でした。確かに赤道が同国のロラス島を横切っており、赤道位置を示すモニュメントが設置されています。ロラス島は同国最大のサントメ島のすぐ南に位置している面積約2平方キロの小島で、座標は東経6度31分となり、経度零の本初子午線は同島から西に720km余り離れています。アフリカ大陸でいえば、ガーナ共和国の首都アクラの東を通過します。ちなみに、赤道と本初子午線の交点には熱帯大西洋海洋予測研究係留アレー（PIRATA）の一環で「Station 13010-Soul」という愛称の海洋気象ブイが設置されているそうです。



ギニア湾

"Gulf of Guinea.jpg" by Amcaja, Copyrighted CC BY-SA 3.0, via Wikimedia Commons



赤道の位置を示すモニュメント
（ロラス島）

"Equator Sao Tome.jpg" by Husond, Copyrighted CC BY 3.0, via Wikimedia Commons

[関連情報]（クリックでWikipediaが開きます）

1. [サントメ・プリンシペ民主共和国](#)、2. [プリンシペ島](#)、3. [ロラス島](#)
4. [本初子午線](#)、5. [グリニッジ天文台](#)